



～ 目 次 ～

1. 目的と使命
2. 研修プログラム施設群
3. プログラムの特色
4. 専攻医の受け入れについて
5. 外科専門研修について
6. 専門研修の評価と修了
7. 専門研修プログラム管理委員会について
8. 専攻医の就業環境について
9. その他



2027年度 甲子園明和外科専門研修プログラム (明和病院外科専門研修プログラム)

1. 目的と使命

甲子園明和外科専門研修プログラムは、明和病院の理念である、親切で信頼される外科専門医を育成することを目的とし、外科領域分野の発展に寄与し、地域医療の拡充と国民の健康、福祉を増進させることが使命です。

具体的には以下の資質を備えた外科専門医を育成します。

- 医師として高い倫理性を備え、必要な基本的診療能力を習得する
- 外科領域の最新の知識・技術を習得し実践できる能力を持つ
- 外科領域の学問的発展に貢献し、自主的に学習する姿勢を習得する
- 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科，小児外科，心臓血管外科，呼吸器外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺・内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動する

2. 研修プログラムの施設群

医療法人信和会明和病院と連携施設(6施設)により専門研修施設群を構成します。そのうち4施設とは基幹施設同士の相互連携を組んでいます。基幹施設及び連携施設のそれぞれについて最低6ヶ月以上の研修を行うことが必要となり、また心臓血管外科領域の研修においては連携施設で行うこととなります。次年度以降も施設群を拡大する見込みで、さらに多数の病院から研修先を選ぶことが可能となります。本専門研修施設群では10名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設

名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管外科, 3:呼吸器外科, 4:小児外科, 5:乳腺内分泌外科, 6:その他(救急含む)	1. 統括責任者名 2. 副統括責任者名
医療法人信和会 明和病院	兵庫県	1, 3, 4, 5, 6	1. 柳 秀憲 2. 相原 司

専門研修連携施設

No.	名称	都道府県	1:消化器外科, 2:心臓血管外科, 3:呼吸器外科, 4:小児外科, 5:乳腺内分泌外科, 6:その他(救急含む)	連携施設 担当者名
1	神戸大学病院 	兵庫県	1, 2, 3, 4, 5, 6	眞庭 謙昌
2	防衛医科大学校病院 	埼玉県	1, 2, 3, 4, 5, 6	上野 秀樹
3	宇治徳洲会病院 	京都府	1, 2, 3, 4, 5, 6	橋本 恭一

4	公立豊岡病院組合立 豊岡病院 	兵庫県	2, 3	田中 仁
5	淀川キリスト教病院 	大阪府	1, 2, 3, 4, 5, 6	金光 聖哲
6	沖縄県立宮古病院 	沖縄県	1, 5, 6	西原 政好

3. プログラムの特色

★ 大規模規模病院で構成される施設群

各病院はいずれも地域の中核病院であり、外科手術症例 1,000 例を超える（2024 年 NCD 実績）大規模病院であり、豊富な症例を背景に充実した研修を行うことが可能です。

★ 専門性の高い指導医

基幹施設である明和病院は内視鏡学会技術認定医 5 名、肝胆膵外科学会高度技能医・指導医 4 名が在籍しており、大学医局と独立した民間病院では希少な肝胆膵外科学会修練施設 A に認定されています。またいずれの連携施設も各領域で高度の施設認定を受けています。

★ 豊富なロボット手術

Hinotori が明和病院と神戸大学に、ダヴィンチが神戸大学・防衛医大・宇治徳洲会病院・豊岡病院・淀川キリスト教病院に、Hugo が宇治徳洲会病院に導入されており、3 年間の研修を通して様々なロボット手術を経験することが可能です。

★ 学術活動・業績の蓄積、サブスペシャリティ専門医への連動

豊富な症例を背景に各領域の必須症例を研修期間中に取得でき、各指導医が外科専門医の必須業績を充足する学会発表や論文作成を指導します。また希望するサブスペシャリティ専門医取得に効率的に連動できるよう、個々人に沿った研修プログラムを構築します。

4. 専攻医の受け入れについて

■ 募集専攻医数

2 名

本専門研修施設群の 3 年間 NCD 登録数は約 3,000 例で、6 名まで募集可能ですが、十分な指導体制を確保するため、初年度の募集専攻医は 2 名とします。

■専攻医募集スケジュール

施設群への見学は随時行っています。末尾記載の窓口へお問い合わせください。原則として11月末までに書類選考及び面接を行い、12月中に採否を決定して通知します。7月頃より募集を開始する予定です。

2026年11月下旬 書類選考、面接

2026年12月 通知

2027年2月 研修病院決定

2027年4月 研修開始

2027年5月31日までに日本外科学会事務局へ研修開始届けの提出

■申請書類、方法等の詳細および申請書ダウンロード

明和病院ホームページ (<https://www.meiwa-hospital.com/>) へ。

“採用情報➡2027年度外科専攻医募集について ”

専攻医研修マニュアル、専攻医評価表/実績記録もホームページより参照できます。不明な点があれば、本プログラムの末尾にある問い合わせ先までご連絡下さい。

5. 外科専門研修について

1) 3年間の専門研修中に、原則として基幹施設6か月以上、および連携施設1-2施設で計6か月以上の研修を行います。

①専門研修3年間に医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準に基づいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、各年度の終わりに達成度評価を行い、基本から応用へ、さらに専門医としての実力が付くように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

②専門研修期間中からサブスペシャリティ研修に連動し、修了後は大学院進学を選択することも可能です。希望するサブスペシャリティ領域の経験症例数や研修時期は調整可能です。

③研修プログラムの修了判定には既定の経験症例数が必要です。

④初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験しNCD登録されている症例は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は「研修実績管理システム」を用いて、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。

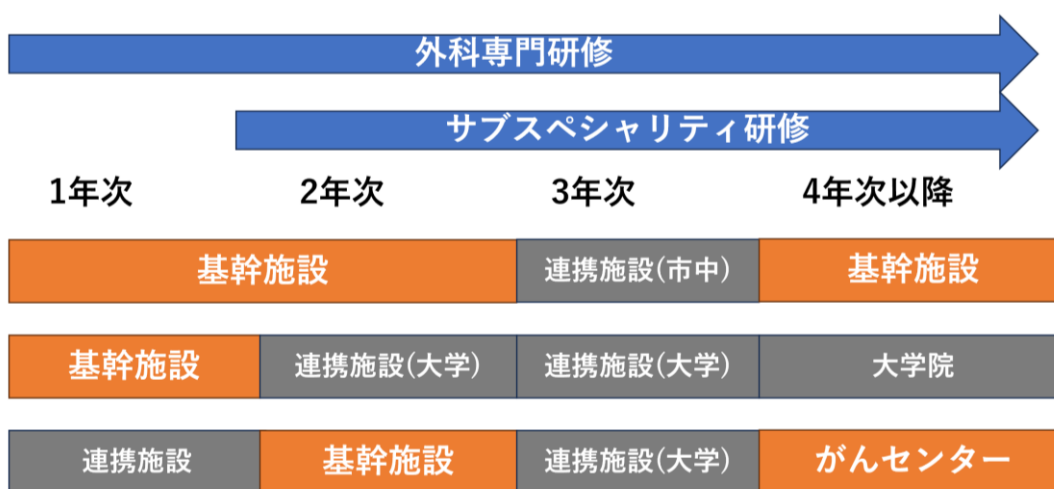
【専門研修1年目】 基幹施設において外科医としての基本診療能力、態度、基本知識と技能を身に着けます。専攻医は定期的開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催セミナーの参加、e-learning や論文などの通読、日本外科学会のビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識の習得を図ります。学会・研究会への参加などを通して専門知識の習得を図ります。

【専門研修2年目】 各専攻医が希望するサブスペシャリティ領域(消化器外科・呼吸器外科・小児外科)専門医資格の取得に向けた技能研修を並行して開始することが可能です。必要経験症例数350例および各領域の必要症例数を2年目中に満たすことを目標に連携および基幹施設にて幅広い症例を経験します。基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の

診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。さらに学会・研究会への参加などを通じて専門知識・技能の習得を図ります。

【専門研修3年目】チーム医療において責任をもって診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

(例) 甲子園明和外科専門研修プログラム



研修の週間計画および年間計画 基幹施設 (明和病院)

		月	火	水	木	金	土	日
8:15-9:00	抄読会, 勉強会, 症例検討会	○		○		○		
8:15-9:00	回診		○					
9:00-12:00	病棟業務	○	○	○	○	○	注	注
9:00-12:00	外来/救急当番	▲	○	○	○	○	▲	
9:00-17:00	手術	○	○	○	○	○		注
13:00-17:00	病棟業務	○	○	○	○	○		
16:30-17:00	手術前症例検討会			○				
16:45-17:00	合同カンファレンス	○						

注) 土曜日は月1回出勤日となり、輪番外来を担当していただきます。また、日曜祝日は当番医制としています。

研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール

月	全体行事予定
4	<ul style="list-style-type: none"> 外科専門研修開始. 専攻医および指導医に提出用資料の配付 (明和病院ホームページ) 日本外科学会参加 (発表) 外科関連学会、研究会、サブスペシャリティ関連学会には適宜参加 (発表)
2	<p>専攻医：研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成 (年次報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> (書類は翌月に提出) <p>研修修了者：専門医認定審査</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻医：研修プログラム評価報告用紙の作成 (書類は翌月に提出) 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成 (書類は翌月に提出)
3	<ul style="list-style-type: none"> その年度の研修修了専攻医：その年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出 指導医・指導責任者：前年度の指導実績報告用紙の提出 研修プログラム管理委員会開催

■専攻医の到達目標(習得すべき知識・技能・態度など)

日本外科学会ホームページの外科専門医修練カリキュラムを参照してください。

■各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師及び看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行い、専攻医は積極的に意見を述べ、同僚の意見を聞くことにより、具体的な治療と管理の論理を学びます。

1) 合同カンファレンス (Cancer Board) : 関係諸科 (消化器内科、病理診断科など) とともに治療前画像所見および様々な臨床因子を検討し、治療前診断および個々の患者に応じた推奨できる治療方針について検討を行います。

2) 術前カンファレンス: 術前患者の画像所見、臨床所見を評価し、治療方針、手術術式などの検討を行います。

3) 病棟カンファレンス: 入院患者、救急患者を対象に手術内容、術後経過、治療方針、看護上の問題などについて医師及び看護スタッフで検討を行います。

4) 抄読会、勉強会: 各施設において定期的に開催し、最新の医学知識のアップデートを行う各施設において抄読会や勉強会を実施します。

5) 手術ビデオカンファレンス: 手術動画を用いて安全な手術手技を学ぶとともに、自らの手術動画をカンファレンスで提示してフィードバックをうけ手技の改善につなげます。

6) 日本外科学会の学術集会 (特に教育プログラム)、e-learning、各種研修セミナーや各病院内で実施される講習会に参加して、標準的医療、今後期待される

先進医療、医療倫理、医療安全、院内感染対策、緩和ケアなどについて学びます。

■ 学問的姿勢について

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は、臨床研究に自ら参加、もしくは企画することで解決しようとする姿勢を身に着けます。学会には積極的に参加し、公に広めるとともに評価を受ける姿勢を身に着けます。研修期間中に以下の要件を満たす必要があります。

- ① 日本外科学会定期学術集会会に1回以上参加
- ② 指定の学術集会や学術出版に、筆頭演者として症例報告や臨床研究の結果を発表

■ 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

医師として求められるコアコンピテンシーには態度、倫理性、社会性などが含まれます。内容を具体的に示します。

- 1) 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

医療専門家である医師と患者を含む社会と契約を十分に理解し、患者・家族から信頼される知識、技能、および態度を身に着けます。

- 2) 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること
患者の社会的・遺伝学的背景もふまえて患者ごとに的確な医療を目指します。

- 3) 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身に着けます。

- 4) チーム医療の一員として行動すること

チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動します。

- 5) 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように学生や初期研修医、後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当し、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導を行います。

- 6) 保険医療や主たる医療法規を理解し、遵守すること

健康保険制度を理解し保険医療をメディカルスタッフと強調し実践します。医師法、医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解します。診断書、証明書が記載できます。

■施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

明和病院施設群プログラムを構成する病院は、いずれも地域の医療を担う中核病院です。専攻医は研修中であると同時に、地域医療を担う戦力として一線で能動的に活躍することが求められます。

- 1) 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 2) 消化器癌患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

6. 専門研修の評価と修了(日本外科学会研修実績管理システム)

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専攻医の評価については指導医のみならず、医師以外の職種からも行います。専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、臨床医としての姿勢と外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。外科専門医修練カリキュラムを参照してください。

■研修の修了

3月末の研修管理委員会にて、研修開始後3年を経た専攻医について修了の可否を評価し、修了者へは専門研修プログラム統括責任者が外科専門研修修了証を交付します。

■修了要件

年次毎の評価表および実地経験目録、学術活動報告に基づき専攻医研修マニュアルに記載の必須症例経験、業績を取得していること。外科専門研修修了判定試験(研修3年目2月実施)に合格し、外科専門医としてふさわしい知識、技能、態度を習得していること。

7. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である明和病院には、甲子園明和外科専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、外科の4つの専門分野（消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科）の研修指導責任者からなる統括副責任者（副委員長）、事務局代表者、他職種代表者および各連携施設担当者などで構成されます。

専門研修プログラム管理委員会は専攻医の研修状況の管理、および専門研修プログラム全般の管理を行います。専攻医からフィードバックされたプログラムに対する評価と要望を受けて、プログラムの継続的改良に向けた審議や専門研修指導医の研修を計画し、プログラムの質の維持と向上に努めます。

8. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設及び連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルズに配慮します。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて明和病院および連携施設の施設規程に従います。

9. その他

■専門研修実績記録システム、マニュアルなどについて

研修実績および評価の記録は日本外科学会の「研修実績管理システム」を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。明和病院において、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。日本外科学会から更新されますので、最新版を参照してください。

■外科専門研修の休止、中断、プログラム移動

専門研修プログラム整備基準に基づいて、専攻医の申請を研修プログラム管理委員会に諮ります。結婚、妊娠、出産、育児、傷病、その他の正当な理由による長期の休暇が取得可能です。性別や配偶者の有無にかかわらず、研修、就業、キャリア形成ができるように配慮します。

【お問い合わせ先】

医療法人信和会 明和病院

総務課／臨床研修センター

課長 上原 唯記

〒663-8186 兵庫県西宮市上鳴尾町 4-31

Tel : 0798-47-1767 (代表)

Tel : 0798-47-1964 (直通)

Fax : 0798-47-7613

E-mail : uehara.y@meiwa-hospital.com